

これからの公共施設のカタチ

その1 「ぼっち」な公共施設へ

今まで利用していた施設も年月が経てば古くなり、建て替えるか、改修するか、なくしてしまうことも選択肢の一つになります。施設ごとに最もふさわしい形を考える中で、建て替えとなった場合はあまり利用されていない部屋を小さくしたり、必要な部屋を残して充実させたりするなど、「ぼっち」な公共施設をめざします。



その2 「みんな」の公共施設へ

これまでは高齢者が利用する施設、子どもたちが利用する施設など、一つの施設には同じ目的や同年齢の人たちが集まっていた。公共施設マネジメントによって、異なる場所にある同じ用途の施設や、異なる用途の施設を一つにまとめたりすることで、地区や世代の垣根を越えた「みんな」が利用し、愛される公共施設をめざします。



実践！公共施設マネジメント
こんなカタチになりました！

- 一宮市民会館
 - 一宮児童館
 - 一宮老人福祉センター
- (令和4年4月リニューアル)

マネジメントする前



同じ敷地内に建つ3施設は、耐用年数の経過、耐震性の不足、老朽化とそれぞれに課題がありました。また、敷地内にはほとんど駐車場がありませんでした。

◀ マネジメント前の一宮市民会館

マネジメントした後



市民会館と児童館を解体し、元の2施設の合計面積より減らす形で1つの施設として新築しました。また、老人福祉センターは長く使えるよう改修しました。敷地内の建物の床面積が減ったことで、維持費などの負担が減り、空いたスペースには駐車場を確保することができました。

利用者の声



駐車場が広くなって車が止めやすくなりました。また、児童館と同じ施設になったので、子どもたちとの交流が生まれ、元気をもらっています。(80代・女性)



市では、今後もこのような公共施設マネジメントを行うことによって、市民の皆さんの財政負担を減らすとともに、安全性の向上をはじめとする機能面の強化も図りながら、よりよい公共施設をめざしていきます。



特集

みんなを幸せにする

公共施設の新しいカタチ

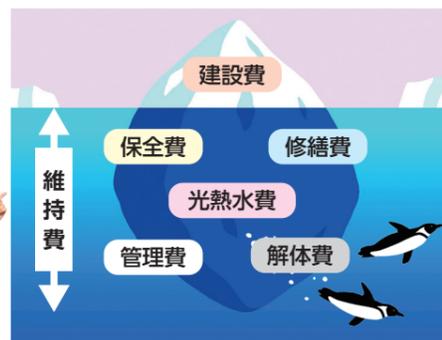
公共施設とは、国や県、市町村が住民の暮らしを良くするために整備した施設のことです。市の半数以上の公共施設が建築から30年以上経過し老朽化が進む一方で、少子高齢化による人口減少やそれに伴う税収の減少など、公共施設を取り巻く環境は大きく変化しています。

旧庁舎と分散されていた南別館・たかじょう西庁舎を統合し、令和元年に総合庁舎として本庁舎が完成。

2 公共施設はお金がかかる？

公共施設にかかるお金といえば、建設費をイメージする人が多いかもしれませんが、実は建設費は氷山の一角。建てた施設を維持していくためには修繕費、光熱水費など、たくさんのお金がかかります。

公共施設の維持費は、年々増え続けています。



1 高知市は公共施設が多い？

市内には、高度経済成長期に人口が大幅に増加したことに合わせて建設されたものを中心に、900以上の公共施設があります。市民1人当たりの床面積は、人口が同規模の他市の平均よりも広がっています。



【市民1人当たりの公共施設の床面積】

3 公共施設を使い続けるためにはどうしたらいい？

公共施設を使い続けるためには、「公共施設マネジメント」が必要です。公共施設マネジメントとは、施設の数や規模、運営コスト、サービス内容、老朽度、利用率などを考慮し、地域に合った方法で施設を運営管理することです。

マネジメント ①
点検 しています

不具合を早期発見することで、安全安心で少しでも長く使えるほか、修繕費が少なく済むなどのメリットがあります。

マネジメント ②
床面積 を減らしています

同じ用途や異なる用途の施設をまとめることで、重複する設備を減らすなどしながらスペースを有効利用しています。

マネジメント ③
負担 を減らしています

使われなくなった施設は売るなどして維持費を減らすことによって、市民の皆さんの財政負担を減らしています。